

# 令和6年12月定例会一般質問

## 通告1

**質問 未来に向けて時の道しるべを整備しませんか**

**答弁 中標津町全体としての取り組みを進めます**

15番 まつむら やすひろ 松村 康弘 議員

### 【質問：松村 康弘 議員】

15番、松村康弘でございます。未来に向けて時の道しるべを整備しませんか。

最近、様々な場面で未来の町民に向けて語り継いでいくべき事象があるのではなかろうかとの想いを強めておりまして、このテーマを一般質問といたしました。

先般、札幌中標津会に出席してまいりました。以前と比べ参加人数が減ったようで、高齢で亡くなられた方の中には、新出實元町長もおられ、このあたりの席に座られて、にこにこされておられたなと思い起こされるものであります。まさに月日の過ぎ去る様をまざまざと見せつけられる思いがございました。

そこで質問いたします。札幌中標津会の締め、ふるさと中標津という曲をみんなで合唱してまいりましたが、歌詞の中に謳われた空港に係るハマナスはどうなっているのでしょうか。

また、役場から中標津空港に至る道路には、札幌から千歳空港に至る道筋に乱立するような企業看板は1枚もございません。これはあの日本木造建築大賞を受賞した空港ターミナルビル開設時に、一村一品運動のリーダーであられた横路知事が景観の視点で問題を提起され、北海道の条例に加えられた結果、今日まで役場から空港までの道筋に企業看板が設置されないで、自然豊かな空港への景観を保っているのです。

同時に阿部善一氏によって作詞された、ふるさと中標津の2番に謳われたハマナスの植栽もされております。戦時中、海軍飛行場を建設時に中国や朝鮮半島の人々を徴用してコンクリートの滑走路が造られました。標津の海岸から運んだ砂や砂利にハマナスの種が混じっていて、それが滑走路の両側に花を咲かせました。その歴史を後世に伝えるためにハマナスは植栽されたと聞いています。

今日、そのことをどれだけの町民が承知しておられるでしょうか。市街地から役場を経



て開陽台に至る中標津大橋の欄干には、黄道 12 宮と呼ばれる、おとめ座やサソリ座のレリーフがあしらわれています。これは天の川委員会を主催し開陽台において星空観察を継続して行ってきた故菅原真一氏の活動が評価され、当時の環境庁から星空の町の称号を授与されたことにちなんで設置されたものです。

しかし、今では朝夕通う通学路にある、あのレリーフのいわれを子供たちは知りません。他にも様々に未来の町民に申し送るような町内の事象はあると思われま

す。一方、町内では昨今、中標津しるべつなぎ会が活発な調査広報活動を展開しておられます。その活動に心から敬意を表するものでございます。11 月 28 日夜には、なかしべつ大学においての講義が、12 月 14 日には町民向けのフォーラムが行われます。昔、中途半端な町中標津というテーマでフォーラムが開催されたことを記憶しております。今回のテーマは、中標津らしさってなんだ？と提起されており、あれから我が町は中標津らしさを追求してきたんだなという思いをいたし、そのようなことを調査された提言が相次ぐだろうと期待いたすところでございます。

それでこの際、しるべつなぎ会の活動を契機として、このような過去にあったこと、現在進行中のことについて、短い文章で通りかかる人々に中標津の想いを綴って発信するような取組が必要ではないでしょうか。例えばそれを時の道しるべと名づけてはいかがでしょうか。教育長の御答弁をいただきます。

#### 【答弁：教育長】

松村議員御質問の未来に向けて時の道しるべを整備しませんかについて御答弁申し上げます。

昨年 12 月に文化庁長官の認定を受け、本年度から計画推進期間がスタートしました中標津町文化財保存活用地域計画で位置づけられております歴史文化の次世代への継承及び将来像の実現に向けて、文化財の保存・活用を図り、歴史文化を活かしたまちづくりに寄与することを目的に、御質問にありましたとおり、本年 3 月、町内で歴史文化の保存・活用、まちづくり、景観形成などに取り組む 5 つの団体を構成員とした中標津しるべつなぎ会が発足し、定期的に会合を積み重ね、官民協働により調査活動などを積極的に行っているところでもあります。

活動の一つとして、文化財情報小冊子の作成に着手しており、各種文化財情報や町の文化財の背景にある先人たちの苦勞と成功体験の物語を後世に伝える標として設定した、なかしべつ遺産「標」の価値を広く発信し、町民はもとより来訪者へ分かりやすくその魅力を伝え広めるために検討を進めている最中であり、今後、全体概要版のほか、6 つのなか

しべつ遺産「標」に基づく冊子を準備が整い次第、順次発行していく予定ですので御期待していただければと思います。

また、12月14日土曜日には、文化財フォーラム2024を開催する予定であり、活動報告やパネルディスカッションなどにより参加者の皆様の共通理解を図るなど、これからも様々な手法を用いて情報発信に努めてまいりたいと考えており、御提案のありました取組のネーミングにつきましても参考とさせていただき、活動を継続することにより見出される新たな価値や様々な事象を地域全体で共有し、保存・活用していくことで、町の固有性や魅力に磨きをかけ、先人たちの苦勞と成功体験をはじめ、有形、無形の「なかしべつらしさ」を大切に受け継ぎ、文化遺産を活かしたまちづくりに向け他の施策とも連携を図りながら、中標津町全体として取組を進め、次世代へつないでいくことを目指したいと日頃より町長ともお話ししておりますので、ここにおられる議員の皆様にも御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。